

大島町の台風やフィリピンレイテ島を襲った台風・竜巻の被害状況を見ると誰しも心が痛み例え小さなことでも支援したいと思う。しかし時間と共に風化しそのような心は小さくなってしまふ。東日本大震災発生後2年8か月が経過し被災地の皆様は明確な復興が見えないまま生活しています。風化させないで支援活動を継続する大切さを活動すればするほど感じています。このような思いから少しでも元気になって欲しいと願い今年もまごころ子ども親善大使活動を実施しました。本号ではこの活動を中心に報告いたします。

復興“海の幸応援ファンド” 第2陣が届き出しました

届いた活ホタテ20枚

当初スタートしたファンド第1陣は浜の復興がままならず2年以上かかり、やっと今年の秋に終了しましたが一部の方から継続支援したいとの声が上がりました。

一つの集落・浜レベルの個人的対応で大変手間がかかるため継続困難でしたがどうしても応援したいという人を対象に第2陣を受け付けることにしました。



泊浜平塚さん夫妻



石巻市泊浜に1口1万円に対し諸経費を

含め5,000円のお返しでお願いしたにも拘わらず生きたホタテを20枚も送ってきました。超新鮮なホタテの味はスーパー販売品とは全く別物の美味しさで送られた人達からたくさんの反響がありました。刺身やバター焼き等信じられない味に一日も早く復興し全国各地に届けられる日がくることを願いました。

JAまつりで石巻市泊浜のホタテ直販

11月2日～3日のJAなす南主催のJAまつりで昨年の石巻市荻浜の生牡蠣直販に続き今年も東北の被災地支援のため海の幸の直販を実施しました。海の幸応援ファンド第2陣をお願いした泊浜のホタテを支援販売することにしました。

泊浜をお願いした理由は震災後3年でやっと出荷できるようになったものの壊れた防波堤や船着場などがそのまま復興にはほど遠い状態でまだまだ支援の手が必要だからです。



被災地の現状を訴えながら支援販売を呼びかけました

経済支援の値付けに悩む

直販するに当たりホタテをいくらで売るかに悩みました。

牡鹿地区では業者が浜まで直接引取りに来てくれるのですが浜の値段は約170円/枚です。

今までお世話になったから3枚500円でいいよと責任者の平塚英徳さんは言いましたが、クール宅急便等の諸経費を考えると2枚500円でないと経済支援にはならないのです。

ネット販売の楽天市場では2Kg以上購入しても300円/枚以上であることが分かりほっとしました。昨年の牡蠣販売の実績を基に60Kg 約240人分を2日に分けて朝水揚げしたものを送ってもらうことにしました。



販売の様子

風化を感じながらも完売

海に縁のない栃木県の人に生ホタテの素晴らしさが分かってもらえるかを心配しましたが、両日共2時間程度で売り切りました。

しかし昨年と大きく違うことは被災地支援という強い気持ちを購入者からは余り感じられないことでした。やはり風化という2文字が心に残りました。

新鮮ホタテをその日、我が家でも購入して食べましたが余りの美味しさに天の恵みを感じながら1日も早い復興を改めて願いました。



完売後、山田組合長他職員と笑顔の写真

那須烏山まごころ子ども親善大使及び門脇花壇活動

JAなす南山田組合長から今年も被災地支援の新米提供の申し出がありました。早速、現地に子どもたちと応援メッセージと共に届ける計画を立てました。

せっかく石巻の被災地を訪問するので、何としても時間を工面して門脇地区の花壇づくりを行い、充実した活動にしたいと思いました。活動名を「那須烏山まごころ親善大使及び門脇地区花壇活動」としました。

参加人数を絞りました

新米贈呈式を現地の皆様と交流しながら行いたいのですが牡鹿地区には津波流失で適当な大きさの会場がないのです。昨年同様、会場は約20畳程の鮎川小仮設住宅集会場にしました。この広さの関係で総勢30人以下で計画せざるを得ませんでした。

また、今年6月に実施した門脇地区での花壇活動で交流した門脇中にも新米を届け、できれば交流できたらいいと考え中学生中心のメンバーで行く計画にしました。

やはりたくさん参加者になりました

那須烏山市には小中学校が8校ありますが、小学校は6月の花壇活動で参加を断った学校だけに絞りました。メイン参加となる中学校を含め3～6名/校として各学校に募集をお願いしました。しかし予想していた通り応募してくれた児童生徒は23人にも上り保護者に先生、龍JINスタッフを加え総勢39人になってしまいました。仮設集会場でのセレモニーは立って実施することにして大型バスを手配しました。

今回、特にこだわった3点について

1つ目は新米贈呈対象仮設数です。鮎川小仮設住宅は牡鹿地区で最も多い58棟で、なかなか支援物資を全棟に贈呈できませんでした。JAにお願いし昨年より増やしてもらうことと私個人も提供することで全棟に届けられるようにしたことです。

2つ目は門脇地区花壇活動で使う球根や花の苗の提供を市の広報誌を通して多くの市民の皆様と呼びかけ支援の輪を広げることにしたことです。

3つ目は贈呈式や歌など各会場でいかにして子どもたちを主役にして輝いてもらうかです。各会場でのプログラムを考え担当する子どもたちを決め必要に応じ事前に子どもたちと打ち合わせを持ちました。

また、行きのバスの中で練習することになりました。

2トントラックをバックアップ車として走らせました

石巻市9か所に贈呈するために新米360Kgを5Kgと2Kgに合計105袋に小分けしました。前日にこれらをバスに乗せる準備をしましたがかなりの時間がかかることが分かりました。また、15人からの



市民から提供されたたくさんの球根やパンジーの苗

市民の皆様から提供されたたくさんのチューリップやスイセンの球根、パンジーやビオラの苗に加え、花壇が固く今回もコンクリート破碎機と発電機を持っていく必要があり、バス1台には乗り切れない状態でした。龍 JIN メンバーの安田さんの提案で彼の2トントラックを走らせることにして前日にこれらの全てをトラックに乗せ切り朝5時の出発に備えました。

11月16日朝5時石巻に向け出発、最初に着いた荻浜

荒川小、烏山中、下江川中、烏山高、ガールスカウト、烏山クラブの児童生徒23人を含む39人が真っ暗な中、石巻を目指し出発しました。

バスの中で被災地の皆様の心に寄り添える活動になれるようたくさんの事前勉強会や司会や挨拶、歌などの練習をしながら石巻に向かいました。

最初に着いた石巻市荻浜は牡蠣むき真っ只中で浜の皆さん全員で作業をしていました。休憩時間に浜の皆さんと新米と応援メッセージの贈呈式を行いました。

江刺みゆき区長さんから「遠いところから何回も来てくれてありがとう。少しずつ復興している中、みなさんの応援は私達の力の源です」とお礼の挨拶をいただいた後、牡蠣むき作業を見学させていただきました。

作業場では牡蠣を食べさせてもらいみんな大喜びでした。

今回はたまたま新船のお披露目式があり、まき餅などのセレモニーに参加する機会に恵まれました。

大漁旗の華やかさに心が踊りました。



珍しい新船のお披露目式に参加しました

次の訪問先、鮎川小仮設住宅集会所

続いて向かった牡鹿半島の最南部鮎川の手前の大原浜でボランティア活動に情熱を傾け続けている英国人キャロラインさんが待っていてくれ、バスに乗ってもらい震災以降今まで取り組んできた活動について熱く子どもたちに語ってもらいました。

その後、到着した鮎川小仮設住宅集会所では仮設の古内区長を始め各班長さん、泊浜代表の平塚さんご夫妻、民宿泰平荘の阿部泰子さんたちが集まってくれました。

各学校の代表挨拶と子どもたち全員の自己紹介、鮎川の皆さんの挨拶などを行い各地区の代表の方に新米と応援メッセージをそれぞれお渡ししました。

烏山クラブの羽石侑輝くん(小6)が参加の動機をつづった作文を朗読し交流しました。

古内区長さんから「子どもたちと何度も来ていただき何とお礼を言っていけないかな。」



バス内の勉強会



荻浜での贈呈式

牡蠣をごちそうになりました



キャロラインさんの熱い思いを聞く



牡鹿の皆さんとの交流会の様子

皆さんのお陰で5年後には仮設を卒業することができると思う」とお礼の言葉を述べられました。その後、お待ちかねの鯨の握りが入った寿司弁当の昼食をいただきました。

今回は平塚さんと阿部さんがホタテとイクラの刺身を準備してくれましたが、その美味しさと気遣いに恐縮してしまいました。

最後にガールスカウトリーダーの玉造さんの指揮のもと全員で「ふるさと」と「花は咲く」を歌い心が一つになったことを実感しながら集会所での交流会を終了しました。

門脇地区来年春用の花壇活動

予定時間を大きくオーバーしてしまった関係でおしかのれん街での買物を中止し門脇地区に向かいました。門脇地区で目についたのは被災した車の山がなくなっていたことでした。人が中に入っていた悲しみを思いほっとしました。

門脇地区では6月に一緒に花壇づくりをしたキンボールクラブの子どもたちが、面倒を見ている門脇中の今泉校長先生と共に花壇活動をしていました。事前に今泉先生とは花壇活動や新米贈呈に関して打ち合わせをしましたが、共に活動することを約束してくれていました。

門脇地区での新米及び応援メッセージ等の贈呈式

花壇活動の前に門脇の皆さんに集まってもらいセレモニーを実施させていただきました。門脇中と門脇の焼きそば店味平の尾形さんに新米や応援メッセージなどをお渡しした後、今泉先生と尾形さんから挨拶してもらいました。

今泉先生は門脇中としての花ロードづくりの思いや活動の取組みについての紹介をしながら感謝の言葉を述べられました。尾形さんからは来てくれたことのお礼や応援メッセージなどの資料を本にして全国の人に読んでもらいたいなどいつもの通り元気一杯の挨拶をしてくれました。

荒川小6年の渡邊海人くんが6月の花壇づくりに参加し、夏休みに家族で再度訪れた時に今泉校長先生から声をかけられてお礼を言われたことなどをにつづった作文を朗読しました。

一生懸命の門脇地区での花壇活動

一連のセレモニー終了後市内全小中学校の花壇に全員協力して土を耕し市民から提供



牡鹿地区の代表の方に新米や応援メッセージなどを渡しました



鯨の握りの入った寿司弁当をいただいています



門脇中今泉校長と尾形さんに新米贈呈



荒川小6年渡邊海人君が作文を朗読

されたチューリップやスイセンの球根、パンジーやビオラの苗を植えました。

市民から頂いた球根や花の苗などが余りにも多くひまわり畑まで急遽耕し薄暗くなるまで頑張って植えましたが、かなり残りました。門脇中と尾形さんにお渡しし、他の花壇づくりに役立ててもらうことにしました。花壇活動が終了した時にはさすがに全員疲れた様子でしたがやり遂げた満足感にひたっているように見えました。



単独参加の鳥山クラブ羽石くん 一生懸命に取り組んだ春用の花壇活動 曾根原さんが始めて参加しました。



各学校の花壇を分担して植えました

花壇活動をやっと終え、笑顔でポーズ

最 渡邊海人君が作文を朗読 〃看板の前にある慰霊塔に全員で手を合わせ予約しておいた尾形さんのB1グランプリ6位の焼きそばを受け取って帰路に就きました。

帰りのバスの中で

帰りのバスの中で全員に感想を話してもらいました。

鳥山高校リーダーの薄井佑季さん(高2)は「市民から提供された球根が花を咲かせ被災地の皆さんを笑顔にしてくれたら嬉しい。今日はたくさんの方に喜んでもらえ私が逆に元気をもらった気がした。また次の機会にも参加したい」とまとめてくれました。子どもたちの感想文の中に「今日は一言でいい表すと、とても素晴らしい一日だったと胸を張って言うことができる」という内容のものがありませんでしたが、一生懸命企画した苦労が一瞬の内に吹き飛ばす思いでした。

運転手さんから感激の感想をいただきました

さらにびっくりしたことがバスの中で起きました。子どもたちの心暖まる感想を聞いていた仁井田観光の千葉運転手さんが「子どもたちの感想を運転しながら聞いて、こんなに感動したことはない。私にも話をさせて欲しい」とマイクを持って話し始めたことでした。このような素晴らしい瞬間に立ち会えた喜びをかみしめながら栃木に帰ってきた充実の1日でした。



帰りのバスの中でそれぞれが感想を発表